

妊娠糖尿病 (GDM) について

～ GDM 妊婦は将来糖尿病になりやすい! ～

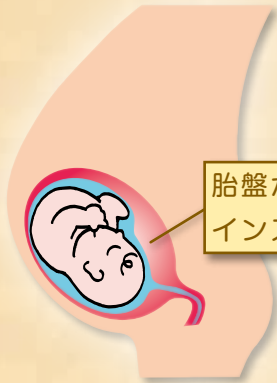
GDM が増えているのをご存知ですか？

平成 22 年 9 月に妊娠糖尿病の診断基準が変わり、患者数は増加傾向にあります。最近の報告では、妊婦の約 1 割が GDM と診断されると言われています。当周産期センターでの H24 年の上半期 GDM 患者は 11 人で全妊婦の 7.4% でした。

GDM とはどんな病気？

妊娠中に発症した、あるいは妊娠中に初めて発見された血糖値の異常を言います。

GDM は、胎盤から出てくる因子 (ホルモン) が原因の 1 つと言われています。このホルモンは、インスリン (血糖を下げるホルモン) の働きを弱めます。



胎盤から出るホルモンなどにより
インスリン機能低下



高血糖になり、赤ちゃんに運ばれる
糖も増え、赤ちゃんも高血糖になる

症状

お母さんが高血糖であると、赤ちゃんも高血糖になり、いろんな障害が起こります。

お母さん

妊娠高血圧症候群、
羊水量の異常、
肩甲難産
など

赤ちゃん

流産、奇形、巨大児、
心臓の肥大、低血糖、
多血症、電解質異常、
黄だん、胎児死亡
など

診断

75g 経口ブドウ糖負荷試験*において次の基準の 1 点以上を満たした場合に診断されます。

- ①空腹時血糖値 $\geq 92\text{mg/dl}$
- ②1 時間値 $\geq 180\text{mg/dl}$
- ③2 時間値 $\geq 153\text{mg/dl}$

* 75g 経口ブドウ糖負荷試験

絶食して空腹のまま採血し、血糖値を測定。次に、ブドウ糖液 (ブドウ糖 75g を水に溶かしたもの、またはデンプン分解産物相当量) を飲み、ブドウ糖負荷後、1 時間と 2 時間後に採血し、血糖値を測るという検査。

GDM になりやすい主な要因

- 35 歳以上
- 肥満
- 糖尿病の家族歴がある
- 過去に大きな赤ちゃん (4000g 以上) を出産したことがある

治療

血糖の厳重な管理が最も大切で、食前 100mg/dl 未満、食後 2 時間 120mg/dl 未満になるように管理します。妊娠中は、まず食事療法を行います。多くがインスリン治療を必要とします。

出産後も注意しましょう！

産後 6～12 週間後に再び 75g 経口ブドウ糖負荷試験をうけ、妊娠糖尿病が治っているかどうか評価してもらいましょう。また、妊娠糖尿病になった方は、妊娠糖尿病にならなかった方に比べ、将来 7.43 倍の高頻度で糖尿病になりますので、その後も定期的な検診が必要です。

最近の報告では、母乳育児が糖尿病の発症を大きく低下させると言われています。GDM であった方はできる限り母乳で育てることをお勧めします。

